

<資料>

教育臨床報告

小林 勝年

A Report of section of Educational and Clinical Psychology in 2011

教育臨床活動として筆者が2011年に行った内容について報告する。

1) 個別療育

発達障害のある小学生生徒2名に対して「療育研究室」(2階)にて実施された。個別療育計画をもとに毎週火・水曜午後4時～5時に隔週で実施した。尚、8月は夏季休業のため中断し、9月より再開した。担当は主として心理学専攻大学院生とし、筆者がアセスメントも含めてスーパーバイズを行いながら進めた。

2) 外来相談 ()は内訳

1月 6件(非行6)

2月 10件(異性交遊4, 親子関係3, 抑うつ1, 発達障害1, 保護者間関係1)

3月 1件(自殺念慮1)

4月 4件(発達障害1, 抑うつ1, 性格的問題1, 不登校1)

5月 3件(拒食症1, 教師への不満1, 不登校1)

6月 7件(不登校3, 発達障害2, 進路1, 親子関係1)

7月 8件(発達障害3, 育児相談1, 抑うつ1, 不登校1, 進路1, 親子関係1)

8月 5件(友人関係1, 発達障害1, 学習障害1, 自殺念慮1, 育児不安1)

9月 0件

10月 2件(いじめ1, 虐待1)

11月 7件(不登校4, いじめ1, 学業不振1, 親子関係1)

12月 2件(親子関係1, 不登校1)

合計 55件

- ・コンサルテーション36件(保育士13, 高校教諭5, 小学校教諭4, 養護教諭3, 臨床発達心理士2, 療育担当者2, 学校心理士2, 中学校教諭1, 専門学校講師1, 塾講師1, 保健師1, 教育相談員1)
- ・アセスメント35件(新版K式発達検査9, WISC-III 8, DN-CAS 3, グッドイナフ人物画知能検査4, S-M社会能力検査3, フロスティック視知覚発達検査3, WISC-IV 2, 児童用顕在性不安検査2, 状態・特性不安検査1)

3) 附属学校への支援

<幼稚園>…幼児の発達相談(5月6日, 5月13日)

<小学校>…Cフレンズ(紙上相談活動)毎週木曜午後1時～1時30分 助言者として参加。

- ・10月14日AM9:45～10:00 NHK eテレ『道徳ドキュメント』にて「悩み相談, 待ってます」というタイトルでピアサポート活動について放映されたが, 1月～2月において番組作成のための取材に協力した。

- ・11月10日 附属小学校保護者会による「井戸端会議」のコーディネイターを務めた。
- <中学校>…生徒支援委員会（5月26日，7月7日，9月8日，12月16日）に助言者として参加。
- ・1年生全員に対してエゴグラム（性格検査）を実施し，教職員の生徒理解のための分析資料を作成した。
- ・6月25日 2学年教育懇談会研修会講師「思春期の心と身体」
- ・個別の相談事例 16件
- <特別支援学校>…発達相談・教育相談各1件
- ・8月2日 子どもを語る会 講演「知的障害のある子どもの性教育を考える」
- ・9月1日 保護者カウンセリング
- ・12月28日 教員に対してコンサルテーション

4) 発達保障の学習会

中堅保育士研修(現在は保育リーダー研修)の修了者を対象に発達保障の学習会を行った。以下，各回の学習テーマを示す。

- 3月19日 自我の発達～対話的關係の大切さ
- 4月16日 乳幼児期の言葉～2歳児の「自分語」
- 5月28日 心の理論が獲得される時～人參課題から読み取れる子どもの心
- 6月25日 自尊心の低い子どもたちの発達課題
- 7月16日 子どもは他者をどう理解していくのか
- 10月22日 家庭療育を支える(1) 中川信子講演集を読む
- 11月12日 家庭療育を支える(2) 中川信子講演集を読む
- 12月10日 9・10歳のカベと人格的基礎

5) 事例検討会

以下，13ヶ所 延べ20回の事例検討会に助言者として参加し意見を述べた。

- 7月 1日 八頭町大御門保育所
- 7月 1日 兵庫県佐用町はなさきむら作業所
- 7月 7日 鳥取県立緑風高等学校
- 7月 8日 八頭町丹比保育所
- 7月14日 鳥取県立智頭農林高等学校
- 7月 5日 八頭町郡家保育所
- 8月 1日 八頭町下私保育所
- 8月24日 八頭町隼保育所
- 8月25日 八頭町安部保育所
- 8月29日 八頭町たから保育所
- 8月30日 八頭町中私保育所
- 9月 2日 八頭町国中保育所
- 9月 2日 兵庫県佐用町はなさきむら作業所
- 9月 5日 八頭町船岡保育所
- 9月 6日 八頭町郡家保育所
- 9月 9日 八頭町たから保育所
- 9月 9日 八頭町下私保育所

- 10月 28日 鳥取県立智頭農林高等学校
- 11月 17日 鳥取県立緑風高等学校
- 12月 9日 兵庫県佐用町はなさき村作業所

6) 啓発

- 1月 20日 中級スポーツ指導員養成講習会 (財団法人日本障害者スポーツ協会) 講師
「知的障害・発達障害とスポーツ指導」
- 2月 9日 鳥取市立西郷小学校教員研修会 講師「いじめ指導と学級経営」
- 2月 19日 鳥取県福祉研究会審査員障害福祉分科会座長(審査員)
- 3月 6日 「臨床発達心理士」資格認定委員会 (東京)
- 3月 12日 鳥取市賀露地区公民館研修講演 「親子のコミュニケーションを考える」
- 3月 21日 兵庫県作用町はなさきむら施設職員研修「知的障害と支援」
- 3月 21日 兵庫県佐用町 社会福祉法人はなさきむら保護者会・職員合同研修会「知的障害とは」
- 3月 29日 鳥取県障害者虐待防止体制整備検討委員会委員 アドバイザー
- 4月 15日 兵庫県佐用町はなさきむら施設職員研修「労働保障は発達保障の基礎」
- 4月 16日 鳥取臨床心理研究会研修講師「ハーモンスの自己心理学」
- 4月 21日 鳥取県通級指導教室担当者研修講師「発達障害のアセスメント」
- 6月 11日 八頭町集団療育アドバイザー
- 6月 16日 発達障害のある生徒支援事業拠点校(智頭農林高等学校)研究推進委員会委員長
- 6月 24日 美和小学校人権教育研修会講師「自尊心を育てる」
- 6月 29日 鳥取市津ノ井小学校教職員研修「自尊感情について」
- 6月 30日 鳥取県人権尊重社会を実現する鳥取研究集会 障がい部門講師
- 7月 2日 「臨床発達心理士」資格審査委員会作問検討委員会 (東京)
- 7月 16日 鳥取県臨床心理研究会総会記念講演「発達疎外の現代社会」
- 7月 31日 「臨床発達心理士」資格審査委員会作問検討委員会 (東京)
- 8月 4日 第35回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会 障がい分科会講師
「何故、障がい者差別は無くならないのか？」
- 9月 8日 鳥取県立鳥取緑風高等学校教員研修講師「レジリエンスの育成」
- 9月 13日 「臨床発達心理士」資格・書類審査 (東京)
- 9月 14日 「臨床発達心理士」資格・事例研究審査 (東京)
- 9月 16日 鳥取県社会福祉事業団主催専門職研修「知的障害のある人の暮らしを支える」
- 10月 7日 兵庫県佐用町はなさきむら作業所「社会生活能力検査の分析方法」
- 10月 23日 日本臨床発達心理士資格認定委員会 (東京)
- 10月 25日 鳥取市人権委員研修 講演「累犯知的障害者の福祉的課題」
- 10月 29日 鳥取県いのちの電話相談員公開講座「自尊感情と生きること」
- 11月 4日 鳥取県立青谷高等学校人権学習講演「障がいって、何？」
- 11月 9日 鳥取県立盲学校小学部研修「発達検査について」
- 11月 18日 鳥取市賀露地区公民館人権研修講演「障害のある人が地域で暮らすことを考える」
- 11月 23日 障害者総合福祉法骨格提言学習会講演「骨格提言の実現に向けて」
- 11月 26日 日本臨床発達心理士資格認定委員会面接試験 (大阪教育大)
- 11月 29日 鳥取市立河原第一小学校「移行支援会議」助言者
- 12月 1日 鳥取県立智頭農林高等学校研修講演「アスペルガー障害の理解と支援」

- 12月1日 鳥取県立盲学校小学部研修「発達検査について」
- 12月9日 鳥取県立鳥取養護学校校内研修 「授業研究」助言者
- 12月10日 日本学校教育相談学会鳥取支部公開講演「発達危機としての9歳の壁」
- 12月15日 鳥取県立盲学校小学部研修「発達検査について」

7) その他

- ・2月18日 第78回国立大学教育実践研究センター協議会（於東京学芸大学）教育臨床部門会議に参加し主として不登校問題や発達障害者支援について情報交換を行った。
- ・2月27日 兵庫教育大学教職大学院総合シンポジウム(神戸)スクールリーダー養成の総合プログラムに参加。「これからの生徒指導」をテーマに議論され主として自己指南力の育成に話題が集まった。
- ・4月12・15日 個別移行支援計画作成について保護者に助言を行った。
- ・5月～7月 震災に伴う心のケア活動として関西に転居した被災者のメール相談を担当した。
- ・9月19～30日 「日本発達障害ネットワーク」福島県委託事業(専門家派遣)より臨床発達心理士スーパーバイザーとしての派遣要請があり、福島県相馬市内の障害児放課後児童クラブ「ゆうゆう」を拠点に「心理的支援」を行った。利用生徒は8名で緊急時避難準備区域に指定された肢体不自由養護学校からの転校生に対する対応や発達障害のある生徒に対する支援についてコンサルテーションを行った。放課後児童クラブでの支援は「構造化」に基づいた環境整備や個々の生徒に対する配慮事項であった。例えば、パニックになった子どもへの対処が問題として挙げられたが、パニックの原因・形態・持続時間・意味などの分析と共に、震災に伴う環境の激変による影響も加味して検討しなければならない問題であったため、包括的なアセスメントとその対策としての家庭・学校等とのネットワーク支援の必要性を説いた。一方、担当保育士さんに対する助言としては自傷行為の対応や生活動作の支援に向けられた。その中には「体幹機能障害」・「相貌失認」など障害の基本的な理解に関する内容も含まれていた。